

Istanbul Weekly vol.1-no.9

イスタンブールウィークリー

発行：在イスタンブール日本国総領事館 発行日：2012年12月14日（金）

— 今週のポイント —

1. 政治：新憲法草案作業、2013年へ越年。
PKK支援企業の株式差し押さえ。
2. 軍事：パトリオットミサイルの配備地検討中。
徴兵制度修正法案検討中。
3. 経済：第二原発、中国有利の観測。
第3四半期の経済成長率は1.6%と予想を下回る。
4. 治安：今年は6件発生した警察に対する襲撃事件はDHKP/C（革命人民解放党/戦線）の犯行。
2008年から2011年の3年間に子供の行方不明者数は約2万7千人。
5. 社会：男性は肺がん、女性は乳がんの率高し。
妊婦と授乳中の女性の労働時間を7.5時間に制限。

1. 政治

●PKK支援企業の株式差し押さえ

2011年に開始されたタバコ・酒の密輸捜査の結果、トルコ最大のタバコ工場の一つを所有するヨーロピアン・タバコ社が、製造したタバコをメルシン自由貿易地区からイラク、イラン、キプロス、ルーマニアへ輸出しているようにみせかけ、実際はタバコを国内市場に流通させ、何百万リラも短期間にぼろもうけしていたことが判明。手法は、メルシン自由貿易地区から輸出するため船に積載された後、沖合で待ち受ける小型船に積み荷を移し替え、再度国内に持ち込み国内市場に流すもの。これにより、一箱当たり0.24~0.36リラで輸出されるタバコが、密輸物資として国内で一箱当たり1.5リラで販売されていた。たばこの密輸入により、稼いだ闇金は両替商で資金準備された後、PKKに流れていた。同社株の55%を保有する株式保有者260名の株式と財産が押収された。（12月7日付HT紙）

●BDP議員の特権廃止関連

エルドアン首相は、13日に東部・南東部選出のクルド系AKP議員やAKP県支部長を集め、BDP議員の特権廃止に関して反対意見を聴取る予定。最終的な決定は来年3月までに延期された。（12月12日付T紙）

【注】AKP党内ではクルド系議員もおり、BDP議員の特権廃止に関しては異なる意見があることから、党内調整に手間取っている模様。エルドアン首相はBDP議員に限らず、全党の議員に適用という方向性も一時期打ち出していた。

●新憲法草案、2013年に延びる

憲法和解委員会は、2012年末までに新憲法草案作業を終わらせる予定であったが、作業日程は2013年に延びる見込み。新憲法は130条項から構成されるが、このうち59条項は検討開始済み、21条項で調整が終わっている状況。（12月12日付T紙）

●【参考論調】AKP、クルド問題で二つの顔

AKPはクルド問題で二つの顔を用いている。一つ目の顔は、エルドアン首相の発言に見られるように、死刑復活の議

論、BDP議員の特権廃止、BDP議員へ山に戻るようにとの呼びかけ等が特徴であり、誰も戻りたくない90年代に回帰しているかの如き状況。また、一方の顔は、AKP主要メンバーを見ると分かるように、穏健派であり改革者、そして民主主義の議論にオープンなもの。これは硬軟両様の姿勢を使いわけること、AKPがこの10年間で東部・南東部で作り上げた票田を念頭に、2014年3月以降に始まる一連の選挙までに、クルド問題を最小化またはPKKに武力放棄させることを目標とした戦略と考えられる。（12月12日付Fuat Keyman氏、M紙）

●アッバース・パレスチナ自治区大統領、トルコ訪問

12日、アッバース・パレスチナ自治区大統領は、ギョル大統領の招待により、国連非加盟国オブザーバー地位を得た後の最初の外遊先としてトルコを訪問。エルドアン首相は、在トルコ・パレスチナ大使が開催した夕食会において、「シモン・ペレス氏は、『有効関係にあった時期にはトルコは住宅建設業で成功しているのだから、その経験を、パレスチナの人々に活かしてはどうか、それならイスラエルは資金を出そう』と発言していたのではないかと。このようにイスラエルは朝と夕で変わってしまう」と発言。アッバース大統領は、国会におけるスピーチにて、トルコの対パレスチナ支援に感謝表明。（12月13日付HT紙）

●オルハン・パムック氏、仏紙上でアサド大統領に書簡

ノーベル賞作家オルハン・パムック氏その他作家の署名入書簡が、仏リベラシオン紙面に掲載され、「辞任しなければ、残された道はサッダーム・フセインかガダフィーフィーのような死が待っているだけだ」と主張。同書簡は、イスラエル人作家デーヴィッド・グロスマン氏、イタリア人作家クラウディオ・マグリリス氏らによる連名。（12月13日付H紙）

●トルコ・アフガニスタン・パキスタン三カ国会合

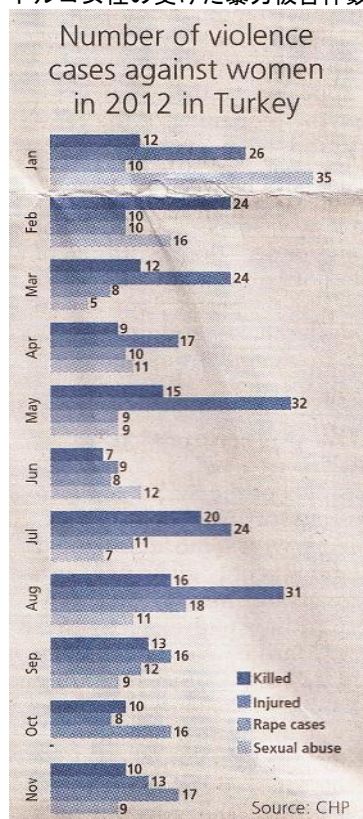
12日、第7回トルコ・アフガニスタン・パキスタン会合がアンカラで開催され、各国の大統領が出席。エルドアン首相も出席し、各国との二国会談の後、4者会談が実施され

た。同会合では国境の安全保障、諜報情報の共有、兵士の教育・合同訓練、警察訓練等について議論がなされた。今後もトルコの諜報情報を、テロとの闘いのために他二国と共有していく訓練の継続が決定された。(12月13日付H紙)

●野党 CHP、世界人権デーに与党を批判

世界人権デーとなる12日、野党 CHP はトルコの人権状況について政権を批判。ダウトオール外相は、人権の普遍的価値の保護・促進はトルコ外交政策の基本要素であるとし、2012年3月14日にトルコは「女性・家庭内暴力に対する暴力予防・闘争に関するヨーロッパ条約理事会」メンバーとなり、同条約を最初に署名・批准した最初の国だとして、トルコは人権分野で顕著な進展をみせているとした。

【表：トルコ女性の受けた暴力被害件数（2012年）】



●【トルコ周辺の中東諸国情勢】

1. シリア関連

(1) トルコへのシリア人避難民数：13万8965名（12月13日現在）

（トルコ首相府緊急災害対応総局（AFAD）のウェブサイト）

2. 米国メディア、シリア軍の化学兵器使用を示唆

米国 NBC テレビは、諜報系の情報源に基づき、シリア軍が同国国民に対してサリンガスを搭載した爆弾を準備中であり、あとはアサド大統領の命令を待つのみ状況にあると報道。シリアは、1992年の化学兵器禁止条約非承認国7カ国のうちの一国。(12月7日付HT紙)

2. 軍事

●パトリオットミサイルの配備地検中

NATOによるトルコへのパトリオットミサイル配備に関し、ドイツ政府は、パトリオットミサイル2式と兵士400名を2013年1月31日までトルコに派遣することを承認。オラ

ンダ、米国もパトリオット派遣を承認予定。(12月7日Z紙21面)

ドイツに続き、オランダもパトリオットミサイル2式と兵士360名をトルコへ派遣することを決定。(12月8日M紙30面)

6式のパトリオットミサイルがトルコシリア国境近くのマラティヤ、アダナ、ディヤルバクルにそれぞれ1式ずつ配備される予定。残り3式の配備場所はガーズイアンテップ、シャンルウルファ、キリスと予想されている。(12月8日S紙29面)

ドイツ外務省によると、ドイツのパトリオットミサイル1式は、トルコシリア国境の100km内側のカフラマンマラシュに配備予定。(12月13日A紙17面)

●トルコ軍の兵士数減少

トルコ軍の職業軍人数は、2012年3月時点で71万4,404名。12月7日の軍発表によると、退職・辞職者数の増加により現在64万4,849名にまで減少。(12月8日M紙インターネット版)

●徴兵制度修正法案検中

Bulent Turan AKP イスタンブールの副支部長によると、与党 AKP は、3万トルコリラの支払いにより徴兵を免除する法案を再度検中。2011年12月31日に発効した同様の法律は、今年6月に申し込みが終了しており、現在検中の法案が発効された場合は徴兵の免除を受ける二度目の機会となる。(12月11日C紙7面、H紙26面)

【参考：トルコの徴兵】

大卒男性は、18ヶ月の士官勤務（有給）または半年の兵士勤務（ほぼ無給）を選択可能。

高卒男性は、半年の兵士勤務（ほぼ無給）のみ。

●シリア反体制派支援軍事教育施設の検中

英国インディペンデント紙によると、シリアの反体制派を支援する軍事関係会議がロンドンで開催され、英国国防省高官 Davit Richards 及びフランス、トルコ、ヨルダン、カタール、UAE の各国軍関係者が参加。会議では、シリア反体制派への軍事教育施設をトルコシリア国境のトルコ側に設置する案が議論された。(12月12日M紙25面)

●最後のF-16 戦闘機納入

トルコ航空工業社とロッキードマーチン社製造による最後のF-16 戦闘機がトルコ空軍に引き渡され、12月10日式典が開催。製造されたF-16は合計308機。(12月12日HD紙10面)

●エルゲネコン裁判

エルゲネコン裁判の第1審において12月13日スィリブリ（注：イスタンブールアタテュルク空港の西側）の裁判所で、逮捕中の275名に対して検察官からの罪状陳述が行われる。(12月13日Z紙11面)

【参考：エルゲネコン】

政府転覆計画または裁判の名称で、2003年～2004年の間に政府転覆計画に関係したとされる軍人、警察官、新聞記者、大学教授、野党政治家等約400名が裁判中。「エルゲネコン」とは、次に打って出るために中央アジアのトルコ系民族が一時期退避したという伝説の谷の名称。

3. 経済

●第二原発、中国有利の観測

ユルドゥズ・エネルギー大臣は、第二原発について、中国が自力でファイナンスを用意し、トルコ側から保証金を求めないこととしている点は重要である、他方で中国は、完

成した場合に原発の株式譲渡を求めていると述べた。ロシアが受注したメルシンの第一原発に続き、シノップの第二原発が完成した場合、2基の合計発電力は850億kWh、火力発電に比較し40億ドルの経費節減。(12月7日付TD紙10面)

●Capital誌「トルコの最も有力な500社」

Capital誌は、トルコで最も有力な500社調査を実施し、その結果8分野から24社を表彰した。輸出分野で1位、純益分野で3位を取得したTUPRAS社が総合1位に選ばれた。その他、EnergiSA社が雇用増、取引高増の2分野で1位、TurkTelekom社が雇用保障、純益の2分野で1位とされた。(12月7日付H紙15面)

●ペガス航空がドバイ便を開設

格安航空会社ペガス航空がドバイ便を開設。開設記念式典でスピーチしたアリ・サバンジュ同社社長は、民間航空業界では競争原理が機能していない、自由開放が行われれば全地域へ航空便を開設したいと述べた。(12月8日付C紙11面)

●トルコの所得格差

トルコ企業ビジネス連盟(TURKONFED)は、トルコ81県の所得状況に関する情報を発表。東部・南東部27県が貧困状況。中部40県が中間層でいわゆる「中間所得の罫」(2005年価格で17000ドル相当の所得で停滞し、これ以上の所得に移れない状況)にある、他方、マルマラ地域を中心とした地域は高所得で、特に、イスタンブール、アンカラ、ブルサ、エスキシェヒール、ビレジキ、コジャエリ、サカリヤ、ボル、ドウズジェ、ヤロヴァの10県合計額は、シンガポール、ノルウェー、スイスを超える経済規模。(12月8日付C紙1, 11面)



●イラクで医療産業がチャンス

コチャク在イラク・トルコ大使館参事官は、イラクにおける医療市場は50億ドル規模であり、トルコ企業にとって進出のチャンスにある、成功するために重要なことは現地を訪問しコネクションを作ることだ、この意味で12月4~6日に行われた見本市「バグダット健康2012」は成功だったと述べた。(12月8日付S紙21面)

●男性既製服ブランドSARAR社長インタビュー

日産5000着を誇る男性既製服ブランドSARAR社社長は、現在5大陸49カ国にSARARは進出している、トルコブランドに偏見を持たない米国への進出を特に重視している、イタリアブランドと勘違いされることも多い、イスタンブールの賃貸料は高くニューヨーク証券取引所近くの店舗賃貸料よりも高額であると述べた。(12月8日付S紙9面)

●50年後のトルコの国民所得は53500ドルと推定

米科学技術専門誌「Discover」は、50年後の世界について、世界人口は90億人、うち60億人は都市部に居住、エネ

ギーの25%が原子力発電という推定を発表。トルコについては、2022年頃にEU加盟を達成、2062年にはGDPは5兆9300億ドル、一人当たりGDPは53500ドルとした。(12月9日付S紙13面)

●第3四半期の経済成長率は1.6%

トルコ統計庁によると、第3半期の成長率は予想を下回る1.6%、第1~3四半期の成長率は2.6%。これに基づき2012年成長率は3.2%と推定される。なお、2010年は9.0%、2011年は8.5%であった。(12月11日付HT紙10面)

●保険業界情報

保険業界への外資系進出が進んでいる。7年前25%程度であった外資系保健会社の市場占有率は現在60%程度に上昇。例えば、非生命保険部門では、年金関連企業も含めた全58社のうち、上位20社(市場占有率91%)のうち外資企業は14社。外資系企業の市場占有率は61.17%。(12月11日付C紙10面)

●アナドールジェット社、アンカラ事務所を閉鎖へ

トルコ航空系でアンカラ発着便を取り扱うアナドールジェット社は、12月31日をもってアンカラ事務所の閉鎖を決定。パイロットやフライトアテンダント300名は、アンカラからイスタンブールへの勤務地変更を飲むか退職するかの二者選択を迫られている。なお、同社が取り扱っているフライト自体は、SunExpress社との共同運行として継続。(12月11日付HT紙12面)

●コチ系フォード・オトサン社の社長にアリ・コチ氏就任

コチ系自動車製造会社「フォード・オトサン」の社長がラフミ・コチ氏から三男のアリ・コチ氏に変更となった。これによるコチ一族の企業支配状況は以下の通り。

ラフミ・コチ氏(父): ARCELİK(白物家電)、AYGAZ(ガス供給)

ムスタファ・コチ氏(長男): TOFAS(自動車製造)、YAPIKREDİ(銀行)

オメル・コチ氏(次男): TUPRAS(石油精製)

アリ・コチ氏(三男): FORDOTOSAN(自動車製造)

(12月12日付HT紙8面)

●トルコ向け直接投資が減少

中央銀行によると、10月の経常赤字は9億6000万ドルと予想を下回った。この結果、1~10月の経常赤字総額は410億ドル。他方、1~10月の直接投資は対前年同期比150万ドル減少の105億ドル。但し、新興国向け直接投資の減少はトルコ以外でも見られており、前年同期比でインド48.18%、トルコ、16.13%、ブラジル15.15%、南アフリカ3.05%、中国0.95%と軒並み減少。(12月12日付HT紙9面)

●トルコ全土112カ所の公共施設の開設式典が開催される

ダムや水利施設など112カ所の公共施設に係る開設式典がエルドアン首相出席の下開催された。これら施設の総工費は160億リラ。(12月13日付H紙10面)

●ICカード型身分証明書の発行

エルギユン産業科学技術大臣は、2013年6月よりICチップが組み込まれた新型民証書の発給を開始すると述べた。同カードにより、身分の証明のみならず、銀行口座からの預金引き出し、医療受診、スタジアム入場など幅広いサービスが受けられることになる。(12月13日付HT紙9面)

●トルコ・イスラエル関係の経済への影響

トルコとイスラエルの政治的関係が経済面に徐々に影響しつつある。2011年および2012年の1~10月のトルコの

対イスラエル輸出はそれぞれ 20 億ドルから 19 億ドルへ(1 億ドル減)、輸入は 17 億ドルから 14 億ドルへ(3 億ドル減)。特に観光業は大きな影響を受け、トルコを訪問したイスラエル人観光客は 2009 年全体で 31 万 1000 人であったが、本年 10 ヶ月間で 7 万 3000 人と大幅減少。(12 月 13 日付 TZ 紙 7 面)

4. 治安

●治安当局による対 PKK 作戦等

5 日夜、ディヤルバクル県で、PKK メンバーと思われる覆面をした一団が、走行中の大学のサービスバスに停止を求めた後、同車両にガソリンをまいて焼燬。(12 月 6 日付 TZ 紙インターネット版)

トルコ軍は、ハッキヤリ県で、PKK メンバー 42 名を殺害。(12 月 12 日付 TZ 紙インターネット版)

●エルズルム県のアタテュルク大学でクルド人学生に対する暴行事件発生

6 日、エルズルム県所在のアタテュルク大学に集まった 300 名の集団が、同大学のクルド系学生に対する暴行事件を起こし、7 名の身柄が警察によって拘束。(12 月 7 日付 C 紙 13 面)

●エディルネ県で県警が違法移民者 53 名の身柄を拘束

警察は、エディルネ県経由でヨーロッパ諸国へ違法入国しようとした 53 名(国籍は南アフリカ、シリア、アルジェリア、エリトリア、パレスチナ、ミャンマー、コートジボアール、モロッコ、パキスタン、グルジア)の身柄を拘束。(12 月 6 日付 AA)

●ヴァン県でマグニチュード 4.2 の地震発生

6 日 14 時 38 分頃、ヴァン県でマグニチュード 4.2 の地震発生。(12 月 6 日付 AA)

●63 年前に発禁処分を受けた 453 冊の書籍が解禁

6 日、63 年前に発禁処分を受けたマルクスやレーニン等の著作書籍 453 冊の処分が解除。(12 月 7 日付 DN 紙 6 面)

●アンタルヤ県南部でマグニチュード 4.1 の地震発生

7 日 6 時 50 分頃、アンタルヤ県南部でマグニチュード 4.1 の地震発生。被害報告なし。(12 月 7 日付 TZ 紙インターネット版)

●イエニボスナ区所在の警察派出所襲撃事件発生

8 日、イエニボスナ所在の警察派出所が襲撃され、警察官 2 名が負傷。襲撃犯 2 名は、警察派出所に手榴弾を投げて後に銃で発砲し、警察との間で約 1 時間半に渡り銃撃戦が続いた。警察は襲撃犯 2 名(内、女 1 名)の身柄を拘束したが、1 名は逃走した。DHKP/C メンバーによる犯行と見られる。(12 月 8 日付 AA、12 月 9 日付 Z 紙インターネット版)

●県警は、8 日に発生した警察派出所襲撃事件に関連箇所の捜索を実施

10 日、県警は、8 日に発生した警察派出所襲撃事件関連箇所であるベイオール市及びマルテペ市で家宅捜索を行い、爆弾 3 個等を押収するとともに 6 名の身柄を拘束。(12 月 11 日付 AA、12 月 11 日付 TZ 紙インターネット版)

●ガーズイオスマンパシャ市で警察官 1 名が銃撃され死亡

11 日、ガーズイオスマンパシャ市で、警察官 1 名が銃撃され死亡、通行人 3 名が負傷。警察が襲撃犯(女)の身柄を確保した際、同女は手榴弾を所持していた。革命人民解放/戦線(DHKP/C)メンバーによる犯行と見られる。(12 月 11 日付 AA)

●2008 年から 2011 年までにトルコ国内で約 2 万 7 千人の子供が行方不明

トルコ統計庁は、2008 年から 2011 年までの 3 年間にトル

コ国内で約 2 万 7 千人の子供が行方不明(内、5974 名が発見)。男女別では 3 分の 2 が女子。ここ 3 年間の傾向では家出による行方不明者が増加傾向。(12 月 9 日付 TZ 紙インターネット版)

●警察がイランからの石油密輸パイプラインを破壊

10 日、ハッキヤリ県で、警察が 3km におよぶイランからの石油密輸用パイプラインを破壊。(12 月 11 日付 TZ 紙インターネット版)

●シシリ市オクメイダヌ区で車両 2 台が焼燬

10 日夜、シシリ市オクメイダヌ区で駐車中の車両 2 台が焼燬。負傷者なし。(12 月 11 日付 AA) 11 日にも駐車中の車両数台が焼燬。(12 月 12 日付 Z 紙インターネット版)

●DHKP/C メンバーによる一連の警察襲撃事件は 2000 年に発生した事件の報復

今年発生した 6 件の警察に対する一連の襲撃事件は、2000 年 11 月 19 日に刑務所檻房個室化反対活動の結果同メンバー 30 名が死亡した事件の報復攻撃である。12 月 11 日にガーズイオスマンパシャ市で発生した警察官銃撃事件で逮捕された女は、ギリシャで自爆攻撃と暗殺の軍事訓練を受けた経験を持ち、当時一緒に訓練を受けたメンバー 20 名のうち現在 9 名の身柄が拘束されている。(12 月 13 日付 R 紙 11 面)

●県警がベイオール市で違法薬物一斉取締を実施

12 日早朝、県警は、ベイオール市で違法薬物の一斉取締を実施し、多数の密売人の身柄を拘束。(12 月 12 日付 AA)

●オスマニエ県でマグニチュード 4.1 の地震発生

12 日 3 時 18 分頃、オスマニエ県でマグニチュード 4.1 の地震発生。被害報告なし。(12 月 12 日付 AA)

5. 社会

●トルコ国旗を宇宙に持参した宇宙飛行士、イスタンブールに

NASA で 1995 年に宇宙に行った際に、トルコ国旗を持って任務に当たった宇宙飛行士アルバート・スコット教授が、12 月 5 日、イスタンブールにあるイェディテペ大学において「宇宙での生活と任務」について講演会した。同宇宙飛行士は 16 日間の宇宙での生活と任務について話した。その中でスコット教授は、NASA で教育を受けていた時期に数多くのトルコ人科学者がいたと話した。トルコ国旗は 1971 年にもアポロ 15 号と共に宇宙に持参された。宇宙で 11 日間、月で 3 日間を過ごしたトルコ国旗は現在「イスタンブール玩具博物館」に展示されている。(12 月 6 日付 H 紙 29 面)

●男性は肺がん、女性は乳がん

トルコ厚生省がまとめた統計表によると、トルコでは男性の癌の 1 位は肺癌と前立腺癌、女性では乳癌と甲状腺癌であることが判明。現在トルコ国内での癌患者数は 40 万人に上る。癌は死亡原因の 2 番目に多い病気で、毎年 15 万人以上の患者が発病している。(12 月 7 日付 HT 紙 22 面)

●再開発の副産物「瓦礫」でサイクリング・ロードとテニス・コート

都市再開発で発生する約 3700 万トンの建築廃棄物の一部は再利用され、テニス・コートとサイクリング・ロードの下地として使われる予定。環境・都市開発省は都市の再開発で安全性が問題視されている 1450 万戸の建物の取り壊しで約 3700 万トンの建築廃棄物が出る事を予想。世界の多くの国々では実施されているが、トルコでの建築廃棄物

の再利用は初の試みとなる。(12月7日付H紙10面)

●トルコ航空の顔「(リオネル) メッシ」とともにアルゼンチンへ

トルコ航空の新たなイメージ・キャラクターにアルゼンチンのサッカー・ナショナル・チーム所属メンバーのリオネル・メッシが選ばれた。パルセロナのスタジアムで開かれたトルコ航空とメッシのサイン会でメッシは、トルコ航空に感謝の気持ちを表すとともに「世界で急成長し、サービスが最も良いヨーロッパの航空会社として選ばれているトルコ航空の顔になることを大変誇らしく思う」と述べ、近い将来アルゼンチンの首都ブエノスアイレスに就航が始まるトルコ航空に感謝した。(12月7日付H紙11面)

●エーゲ海地方でマグニチュード7.3規模の地震の可能性
オヴギユン・アフメット・エルジャン教授は南エーゲ海地方で近い将来マグニチュード(M)7.3規模の地震が発生する可能性があることを示唆。被害はボドルム、マルマリスで最も大きいと想定され、特に人口が多いフェティエ、キョイジェイズ、カシュ、ギョジェック、マルマリス、ボドルムにおいて建設される建築物はM7.3規模の地震に耐える物でなければならず、現存の建物は強化されなければならない。トルコでも有数の観光地でもあるため、観光業に打撃がないように備える必要がある。(12月11日付HT紙6面)

●金角湾の交通事故橋

イスタンブール県警はイスタンブールの交通統計を発表した。統計によると2012年前期半年でイスタンブールで

交通事故が最も多いのは金角湾橋(金角湾にはマルマラ海側から順番にガラタ橋、ウンカパヌ橋、金角湾橋)原因は車間距離を充分に取っていないことと、運転ミス。罰金はスピード違反が一番、次に駐車違反、緊急用車線(車道の一番外側にあり、救急車、消防車用に確保されている)走行が多い。(12月11日付HT紙27面)

統計 駐車違反:39万4,013件、スピード違反:36万6,961件、緊急用車線侵入:34万3,699件、赤信号無視:23万0,331件、運転中の携帯電話使用:16万1,349件

●ピヤレパシャ(通り)には異がある!

ベイオール地区ピヤレパシャで行われている道路工事により、掘り起こされた道路は窪みの上が覆われることもなく、夜間にこの窪みにはまる車のタイヤはパンクする。イスタンブールの中でも交通量が多い通りの道路工事の周辺には何の注意を促すものはない。(12月12日付HT紙24面)

●妊婦と授乳中の女性の労働時間7.5時間に

労働厚生省は妊婦及び授乳中の女性に対して新しい労働条件を今後導入することを発表(具体的な開始時期の記載なし)。妊婦及び授乳中の女性に夜間労働を強いることは禁止され、100-150人の労働者を抱える企業は授乳室及び保育室を設置することが義務付けられる。また、妊婦及び授乳中の女性を7.5時間以上働かせることと、一人で働かせることも禁止される。(12月13日付H紙19面)

注：本文中のニュースソースの略称は以下の通りです。

トルコ語新聞		英字新聞		通信社	
Cumhuriyet	C	Herald Tribune	HE	Anadolu News Agency	AA
Hürriyet	H	The Daily News	DN	Agence France Presse	AFP
Vatan	V	Economist	EC	Cihan News Agency	CA
Akşam	A	Today's Zaman	TZ	Doğan News Agency	DA
Milliyet	M	Hürriyet Daily News	HD	İhlas News Agency	IA
Sabah	S				
Radikal	R				
Zaman	Z				
Posta	P				
Haberturk	HT				
Taraf	T				

在イスタンブール日本国総領事館

電話：212-317-4600

FAX：212-317-4604

E-Mail: istanbulweekly@it.mofa.go.jp

WEB: http://www.istanbul.tr.emb-japan.go.jp/index_j.html

facebook: <http://www.facebook.com/Japonya.Istanbul.Baskonsoloslugu>

●トルコに90日以上滞在される方は総領事館に在留届を提出願います。

●新規で配信をご希望の方、配信が不要の方は、お手数ですが以下のメールアドレスにご連絡ください。

istanbulweekly@it.mofa.go.jp